

令和7年度

全国学力・学習状況調査

松伏町分析結果



松伏町教育委員会

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象

小学校6年生、中学校3年生

(3) 調査の内容

- ①教科に関する調査
 - ・小学校調査：国語、算数、理科
 - ・中学校調査：国語、数学、理科
- ②質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査



(4) 調査の方式

悉皆調査

(5) 調査の期日

①令和7年4月15日：小学校質問紙調査

②令和7年4月17日：教科に関する調査

- ・小学校調査：国語、算数、理科
- ・中学校調査：国語、数学

③令和7年4月22日：中学校質問紙調査 及び 中学校の理科（CBT）

(6) 調査を実施した学校

	対象学校数	学校数（実施率）
小学校	3校	3校（100%）
中学校	2校	2校（100%）

令和7年度及び過去の全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料については、下記の国立教育政策研究所のウェブサイトにてご覧いただけます。

（国立教育研究政策研究所リンク）

[国立教育研究政策研究所 教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」](#)

2. 教科に関する調査結果

« 概要について »

(1) 埼玉県との比較について

小学校：国語・算数・理科ともに埼玉県平均を下回っている。

【国語】-3.0 (%) 【算数】-3.0 (%) 【理科】-3.0 (%)

中学校：国語は、同等であり、数学・理科は、埼玉県平均を下回っている。

【国語】±0.0 (%) 【数学】-4.0 (%) 【理科】-1 (IRTスコア)

(2) 全国との比較について

小学校：国語・算数ともに全国平均を下回っている。

【国語】-1.8 (%) 【算数】-3.0 (%) 【理科】-2.1 (%)

中学校：国語は、上回っており、数学・理科は、全国平均を下回っている。

【国語】+0.7 (%) 【数学】-2.3 (%) 【理科】-2 (IRTスコア)

(3) 小学校6年生平均正答率 (%)

令和7年度 小学校学力調査結果



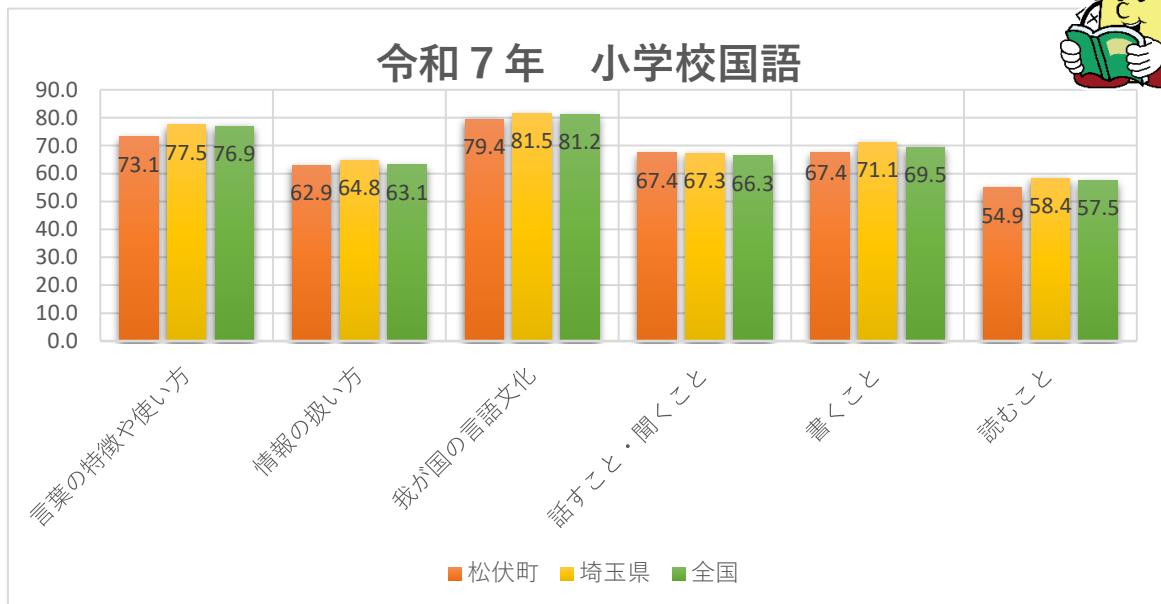
(4) 中学校3年生平均正答率 (%)

令和7年度 中学校学力調査結果



3. 教科に関する調査結果（小 国語）

« 小学校国語について » (%)



(1) 領域別平均正答率の結果について

「話すこと・聞くこと」の領域以外全国の平均を下回る結果となりました。「読むこと」の領域に関しては、全国の平均正答率と比べ 2.6 % 下回る結果となりました。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全14問中、2問が全国平均正答率を上回っています。



話し手の考え方と比較しながら、自分の考え方をまとめることができるかどうかを見る問題
【設問1-3(2) 思考力・判断力・表現力】
で全国の平均を上回りました。

更なる向上を目指して

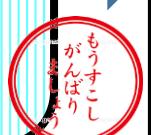
目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかを見る問題
【設問3-3(2) 記述式】



指導のポイント

複数の資料を結び付けて読むためには、資料が文章の場合でも、図表やグラフと同じように丸や四角で囲んだり、線などでつなぎたりするなどして、どの部分と結び付くのかを明らかにしながら読むことが大切です。その際、他者との対話を通して、児童自身が読む目的に立ち返り、必要な情報を再確認して資料を読み直すことが必要です。

【参考】令和7年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例
国立教育政策研究所教育課程研究センター



3. 教科に関する調査結果（小 算数）

« 小学校算数について » (%)

令和7年 小学校算数



(1) 領域別平均正答率の結果について

全領域で全国の平均を下回る結果となりました。「変化と関係」の領域に関しては、全国の平均正答率と比べ 7.9 %下回る結果となりました。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全16問中、4問が全国平均正答率を上回っています。



数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかを見る問題
【設問3（3）数と計算】
で全国の平均を上回りました。

更なる向上を目指して

- ①基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかを見る問題【設問2（4）図形】
- ②「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかを見る問題【設問4（4）変化と関係】



指導のポイント

①多角形の面積を求める際に、基本図形に分割するなど、面積の求め方を知っている既習の図形を見いだして、面積の求め方を考えることができるようになります。

②学習を振り返り、伴って変わる二つの数量に着目し、必要な数量を見いだすことを、これからの学習や日常生活に生かそうとする態度を養うことが大切です。

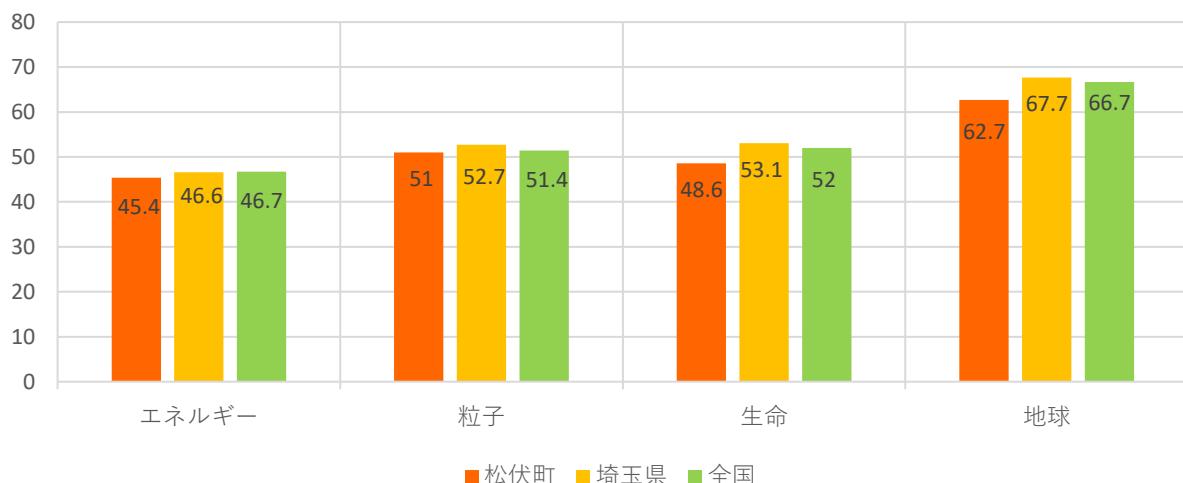
【参考】令和7年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例
国立教育政策研究所教育課程研究センター

3. 教科に関する調査結果（小 理科）

« 小学校理科について » (%)



令和7年 小学校理科



(1) 領域別平均正答率の結果について

全領域で全国の平均を下回る結果となりました。「地球」を柱とする領域に関しては、全国の平均正答率と比べ 4.0 %下回る結果となりました。



(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全17問中、4問が全国を上回っています。



指導のポイント

水の温まり方について、問題に対するまとめを導きだす際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる問題。
【設問4（1）「粒子」を柱とする領域】

更なる向上を目指して

赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる問題。
【設問1（3）「地球」を柱とする領域】

条件を制御した実験の方法を発想し、表現するためには、変える条件や変えない条件に着目し、整理しながら実験を計画することが重要です。

指導に当たっては、検証計画の立案で十分な活動時間を設け、条件制御の必要性を確認した上で、予想や仮説を基に、条件を制御した場合の結果の見通しについての話合い等を行い、児童自ら条件を制御した計画を立てることができるような授業改善を引き続き行っていくことが大切である。また、実験の後には、発想した実験の方法を振り返り、適切に計画し、実験を行うことができていたことを児童自ら自覚できるようにしたり、児童の成果を価値付けたりすることも大切です。

【参考】令和7年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例 国立教育政策研究所教育課程研究センター

3. 教科に関する調査結果（中 国語）

« 中学校国語について » (%)



令和7年 中学校国語



(1) 領域別平均正答率の結果について

3つの領域で全国の平均を上回る結果となりました。「読むこと」の領域に関しては、全国平均と比べ 2.1 %上回る結果となりました。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全14問中、7問が全国平均正答率を上回っています。



指導のポイント

文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかを見る問題
【設問3一二 読むこと】
等で全国の平均を上回りました。



更なる向上を目指して

自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかどうかを見る問題
【設問2一二 話すこと・聞くこと】



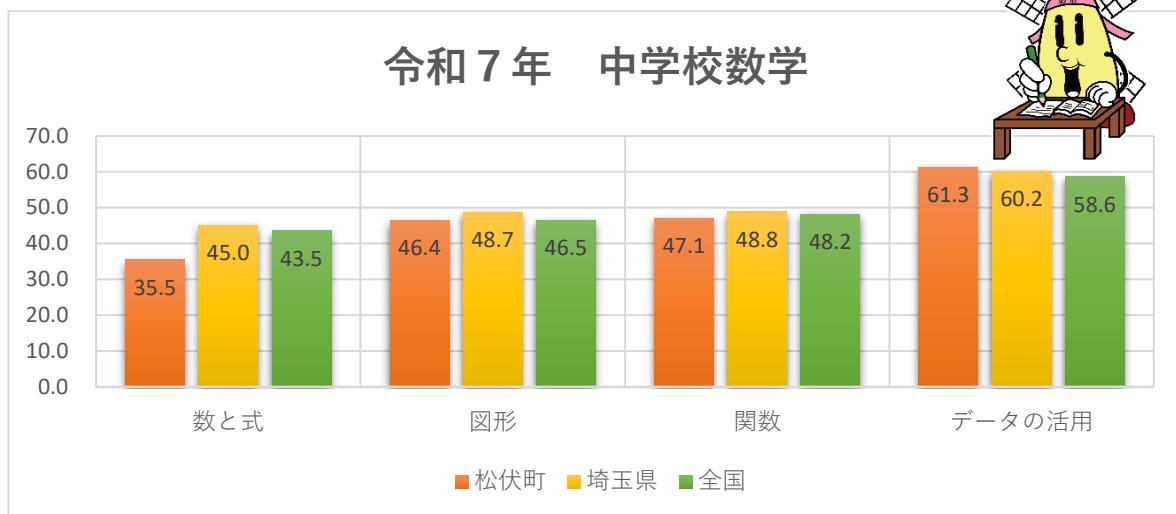
①話の内容を正確に理解するために、質問をする際には、話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することが重要です。

②実際に話合いをする学習では、目的や状況に応じた質問になっているかを検討したり、振り返ったりするような学習活動を位置付けることが考えられます。その際、質問の意図が明確であったか、質問の意図が聞き手に伝わったか、質問が話合いの話題に沿っていたかなどについて、質問を具体的に取り上げて検討できるように指導することが大切です。

【参考】令和7年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例 国立教育政策研究所教育課程研究センター

3. 教科に関する調査結果（中 数学）

« 中学校数学について » (%)



(1) 領域別平均正答率の結果について

「データの活用」の領域では、全国平均を上回る結果となりました。「数と式」の領域に関しては、全国の平均正答率と比べ8.0%下回る結果となりました。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全15問中、7問が全国平均正答率を上回っています。



指導のポイント

相対度数の意味を理解しているか
どうかを見る問題
【設問5 データの活用】



更なる向上を目指して

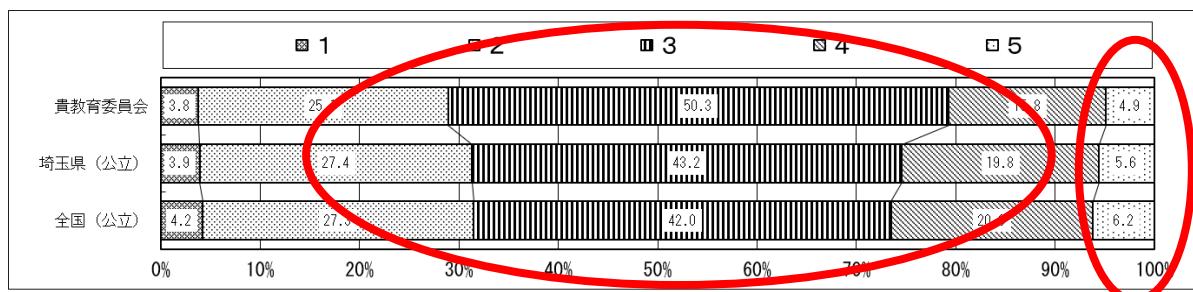
目的に応じて式を変形したり、
その意味を読み取ったりして、事
柄が成り立つ理由を説明するこ
とができるかどうかを見る問題
【設問6 (3) 数と式】



①方程式を解いたり、二元一次方程式について、関数関係を表す式とみて考察したりする場面では、ある文字について解くことの意味を理解し、等式を変形できることが大切です。
②等式の性質などに基づき、等式を変形できるようにするために、ある文字について解くことの意味を理解し、等式の性質などの根拠に基づいて等式を変形できるように指導することが重要です。

【参考】令和7年度全国学力・学習状況調査の結果
を踏まえた授業アイディア例 国立教育政策研究所
教育課程研究センター

3. 教科に関する調査結果（中 理科）



（1）IRT分布比較の結果について

5段階のIRTバンドでは、3が全国と比べて8.2%多く、中間層が多い結果となりました。また、5の上位層も全国と比べて1.3%少ないことがわかりました。

（2）設問別の課題等について



指導のポイント

水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかを見る問題
【設問1（4）「生命」を柱とする領域】

更なる向上を目指して

化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかを見る問題
【設問5（2）「粒子」を柱とする領域】

①「何が反応して、何が生成したのか」が整理できるような指導の改善が必要であると考えられる。「何が反応して、何が生成したのか」が整理できた上で「化学変化の前後で原子の種類と数が変化しないこと」に重点をおいた指導の改善を行うことが有効である。

②化学変化における「反応する物質」と「生成してできた物質」を整理した上で、「化学変化の前後で原子の種類は変わらず、原子の数も変化しない」という知識を確認し、微視的に事象を捉えることが大切である。微視的に事象を捉える際には、1人1台端末を使用して原子や分子のモデルを動かし、生徒が試行錯誤できるようにすることが考えられる。

【参考】令和7年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例 国立教育政策研究所教育課程研究センター